

5

環境指標と数値目標の一覧

A. 川や池の水と水辺

● 環境指標A 1 : 河川のBOD平均値

現状 2.7~11mg/l [H14] → **目標** ⑤ 向上 ⑩ 各河川測定地点でワンランクアップ

- ◇ 河川汚濁の代表的な指標
- ◇ 環境課で調査している天白川3地点、岩崎川、北新田川、三本木川、折戸川、豊田川の計8地点。
- ◇ ワンランクアップとは、環境基準でA~E類型というものがあり、現在の水質がD類型 (BOD8mg/l) をクリアしていればワンランク上のC類型 (BOD5mg/l) の水質をめざすこと。

● 環境指標A 2 : 生活排水処理率

現状 74% [H14] → **目標** ⑤ 88% ⑩ 97%

- ◇ 下水道、合併処理浄化槽、農業集落排水施設により生活排水が処理されている人の割合。
- ◇ 下水道課で把握している。

● 環境指標A 3 : 多自然型河川・親水公園等の整備箇所数

現状 0箇所 [H14] → **目標** ⑤ 1箇所 ⑩ 10箇所

- ◇ 国や県の多自然型整備の基準を参考に定義付けする。
- ◇ 市でも整備可能な準用河川でモデル的に実施し、県管理河川では県に改修時に働きかける。

● 環境指標A 4 : 河川愛護団体数

現状 5団体 [H14] → **目標** ⑤ 10団体 ⑩ 20団体

- ◇ 現状は天白川で楽しみ隊、三本木川を元気にする会、日進岩藤川自然観察会、老人クラブ川の会 (岩崎川)、アクティブ藤塚 (折戸川)。

◆ 検討・把握指標 : 河川流量

- ◇ 目標とすることは難しいが定期的に把握する。

◆ 検討・把握指標 : 天白川における在来の水生生物種類数

- ◇ 現状値は対象とする水生生物種を決めてから確定させる。今のところ魚類、両生類、水生昆虫など。
- ◇ 市民の手で定期的に調査捕獲をする。

◆ 検討・把握指標 : 河川で定期的に回収されたごみの袋数

- ◇ 天白川は天白川で楽しみ隊 (月1回)、三本木川は三本木川を元気にする会 (2ヶ月に1回)。

B. 水の風景・資源

● 環境指標B 1 : ため池の数

現状 46箇所 [H14] → **目標** ⑤ 現状維持をめざす ⑩ 現状維持をめざす

- ◇ 日進市ため池台帳に記載されているため池の数。
- ◇ 市所有は2箇所のみで、あとは民間所有のため池が多い。

● 環境指標B2：雨水タンク・浄化槽転用補助数

現状 未実施[H14] → 目標 ⑤ 100世帯 ⑩ 400世帯

- ◇ H15から環境課で補助制度を開始。平成15年度は12月時点で17世帯。
- ◇ 目標は単年度20世帯と想定して算出。

◆ 検討・把握指標：湧水の数

- ◇ 以前の水分科会の調査によると折戸2地点。
- ◇ 目標については、日進全域の調査を行った上で、それらを維持することをめざして設定する。

◆ 検討・把握指標：流域の浸水面積

- ◇ 名古屋市も含めた天白川流域での浸水面積。上流部の責任が大きいため、目標は0m²をめざす。

C. 里山と息づく動植物

● 環境指標C1：森林面積

現状 調査 621ha[H16.2] → 目標 ⑤ 現状維持をめざす ⑩ 現状維持をめざす

- ◇ 現状は、統計数値に既に計画決定し造成を開始している地区の面積を除いて算出。
- ◇ 本計画では、平成16年2月時点で造成されている森林は仕方ないものとし、それ以上の森林の転用を抑制する方向で目標設定をした。

● 環境指標C2：里山保全活動拠点数

現状 3箇所[H15] → 目標 ⑤ 5箇所 ⑩ 10箇所

- ◇ 現在水と緑の課が関与している活動は、折戸の賢者の森、機織池里山、東小学校里山の3箇所。
- ◇ 里山リーダー養成講座がH14から開始し現在2期目。目標は2年に1箇所活動拠点を増やす計算。

● 環境指標C3：日進自然遊歩道延長

現状 未実施[H14] → 目標 ⑤ 15km ⑩ 30km

- ◇ 既にある散策路（例：総合運動公園内の散策路）を指定したり、新たに整備し、日進版の自然歩道を創り上げる。
- ◇ 20年後の目標は、市境の延長約27km程度は整備するとして設定。

◆ 検討・把握指標：指標生物の生息・生育数

- ◇ 希少種に限らず大切にしたい動植物を指標生物として設定し、その生息・生育数を定期的に調査し把握する。

◆ 検討・把握指標：森林に占める竹林の占有率

- ◇ H6の緑のマスタープランでは竹林158.3ha、森林839.6ha→竹林占有率18.9%。
- ◇ 竹が混在している森林をどう扱うかなど算出にあたって技術的な問題もある。

D. 農のある暮らし

● 環境指標D1：農地面積

現状 539ha[H14] → 目標 ⑤ 511ha以上を維持 ⑩ 452ha以上を維持

- ◇ 台帳上の面積「土地に関する統計年報」。内訳：田 382ha、畑 157ha。
- ◇ 現状維持を目標とすべきだが、現実的には開発中の農地もある。土地利用計画では H.22 に 452ha (16%減) と計画されているため、その数値を開発の最低限のラインとし以降保全する。

● 環境指標 D 2 : **休耕田・放棄水田の面積**

現状 82 ha[H14] → **目標** ⑤ 62ha ㊴ 0ha

- ◇ 産業振興課把握数値。市民による活用などその他の用途を探る。

● 環境指標 D 3 : **市民菜園区画数**

現状 431区画[H14] → **目標** ⑤ 750区画 ㊴ 3,000区画

- ◇ 現状値は産業振興課が提供している市民菜園が 334 区画。その他 J A が提供している分が 97 区画。
- ◇ 目標値は、市民アンケートのニーズから設定。「今すぐに継続的に土と触れ合う暮らしをしたい」 3.4%、「時間があれば…」 19.3%。

◆ 検討・把握指標 : **農のある暮らし実施者数**

- ◇ 将来アンケートなどで把握する予定。対象としては農業従事者、援農者（農業ボランティア）、市民菜園、家庭菜園、農業公園のイベント体験者数など。

◆ 検討・把握指標 : **米の自給率**

- ◇ 米生産量 1,340 t / 年 × 1,000 ÷ (65.2kg / 人・年 × 72,500 人) = 28.3%。
- ◇ 目標値は、現在の休耕田がすべてなくなるとして、人口増加を加味して算出予定。

◆ 検討・把握指標 : **エコ農業宣言者数**

- ◇ 今後、日進版のエコ農業のガイドラインを作成し、それに沿って農業を実施している人にエコ農業宣言をしてもらう。

◆ 検討・把握指標 : **農家戸数**

- ◇ 目標設定はしない。H14 現在、販売農家 534 戸 + 自給的農家 364 戸 = 898 戸。

E. 緑のネットワーク

● 環境指標 E 1 : **残したい樹木・樹林の指定数**

現状 0箇所[H14] → **目標** ⑤ 50箇所 ㊴ 100箇所

- ◇ 以前、緑分科会で調査したものが 30~40 本ある。
- ◇ 制度をつくって、今後市民参加で指定していく。

● 環境指標 E 2 : **市民に開放された樹林地箇所数**

現状 11箇所[H14] → **目標** ⑤ 20箇所 ㊴ 50箇所

- ◇ 小学校周辺の樹林地、公園に隣接した樹林地など公的に開放された樹林地の箇所数。
- ◇ 現状は、東小、梨の木小、相野山小、南小、水晶山緑地、総合公園周辺、香久山の公園 5 箇所。

◆ 検討・把握指標 : **航空写真から見た「緑」の割合**

- ◇ 航空写真から読みとれる一定規模以上の「緑」（樹林・樹木 + 農地 + 草地 + 水面）の計測合計面積。

◆ 検討・把握指標：緑の回廊延長

- ◇ 街路樹、川沿いの並木など、緑（樹木）を線で結ぶ「回廊」の延長距離。
- ◇ 今後現状値を調査し、道路整備計画なども勘案して目標値を設定する予定。

◆ 検討・把握指標：敷地面積 1,000m²以上事業所の緑化率30%以上の割合

- ◇ 事業所の緑化状況を推し量る指標として今後設定予定。

F. 空と風と空気

● 環境指標 F 1：大気汚染に係る環境基準適合率

現状 100%[H14] → 目標 ⑤ 100%達成 ⑩ 100%達成

- ◇ 法に定める方法で大気質を調査している市内地点のうち、環境基準を達成している地点の割合(%)。環境基準が設定されている大気汚染物質ごとに算出。二酸化硫黄、二酸化窒素、一酸化炭素など。

● 環境指標 F 2：市民調査による宅地地区の二酸化窒素濃度平均値

現状 0.03ppm[H14] → 目標 ⑤ 向上 ⑩ 0.02ppm以下

- ◇ 市民が数年前から実施している二酸化窒素調査結果の宅地地区の平均値。年々減少傾向にある。(0.040[H11]→0.036[H12]→0.035[H13]→0.030[H14]) 単位は ppm。

● 環境指標 F 3：市所有自動車のエコカー普及率

現状 [H14] 6.5% → 目標 ⑤ 向上 ⑩ 100%

- ◇ トラックなどエコカーが販売されていない車両は対象外とする。
- ◇ 現在は4台（ハイブリッド3台、電気自動車1台）、母数は62台。

● 環境指標 F 4：エコドライブ宣言者数

現状 未実施[H14] → 目標 ⑤ 1,000人 ⑩ 4,000人

- ◇ アイドリングストップなどのエコドライブステッカーを作成し、購入してもらった数。

◆ 検討・把握指標：エコカー普及率

- ◇ エコカーの対象として☆☆☆とする（電気自動車、ハイブリッド、CNGもここに含まれる）。
- ◇ 毎年度の☆☆☆の税減免自動車を把握し、自動車保有台数で割った値。将来目標は100%をめざす。

◆ 検討・把握指標：主要道路の自動車交通量

- ◇ 国道153号1箇所、名古屋豊田線2箇所、岩崎名古屋線2箇所、瀬戸大府東海線3箇所、岩藤名古屋線2箇所、岩作諸輪線2箇所、米野木筋生線1箇所国・県が調査している。

◆ 検討・把握指標：自動車保有台数

- ◇ 44,103台（平成13年度、軽二輪・軽自動車を含む）。1世帯当たり1.7台。

G. まちなみ・まちかど

● 環境指標 G 1：歴史・文化を感じられる建物等指定数

現状 未実施[H14] → 目標 ⑤ 10件 ⑩ 100件

- ◇ 指定制度をつくって、調査・申告により指定する。

● 環境指標 G 2 : まちなみ保存地区数

【現状】 未実施[H14] → 【目標】 ⑤ 1地区 ⑩ 3地区

◇ 制度をつくって、調査・地区同意により指定する。

● 環境指標 G 3 : 1人当たりの公園・緑地面積

【現状】 9.7m²[H14] → 【目標】 ⑤ 10m² ⑩ 10m²

◇ 人口が増加しているため、年々減少傾向にあるが、上納池公園ができると一気に目標を達成する。
今後とも人口増加に見合った公園整備を行う方向として、国が定める整備目標水準を目標とする。

◆ 検討・把握指標 : 特定の公園利用者数

◇ 野方三ツ池公園は管理委託業者が計測、その他公園愛護会がある公園について簡易調査を依頼することにより把握。これらの公園を特定の公園として、利用者数を合計する。

◆ 検討・把握指標 : 市民会館・スポーツセンター・図書館の施設利用者数

◇ 市民会館・スポーツセンターはそれぞれ把握している利用者数。図書館は貸し出し冊数で換算する。
◇ 今後はセントラルパーク地区にこれらの施設が集中することを想定して、ここで行われるイベント参加者数なども利用者数に含め、算出方法についても再検討する。

H. みちと足

● 環境指標 H 1 : 幹線道路の歩道整備率

【現状】 69% [H14] → 【目標】 ⑤ 72% ⑩ 75%

◇ 幹線道路とは、一級、二級、スクールゾーンに指定されている道路とする。建設課把握数値。

● 環境指標 H 2 : リユース自転車貸し出しステーション数

【現状】 未実施[H14] → 【目標】 ⑤ 5箇所 ⑩ 20箇所

◇ リユース自転車貸し出し制度をつくって、駅や公共施設にステーションを整備する。

◆ 検討・把握指標 : くるりんばす利用者数

◇ 平成14年度で約28万人が利用。

◆ 検討・把握指標 : 自転車・歩行者事故発生件数

◇ 愛知県警の把握しているデータから対人事故の件数を把握する。

I. 暮らし全般・エネルギー

● 環境指標 I 1 : 環境にやさしい行動実行率

【現状】 40~68%[H14] → 【目標】 ⑤ 各行動実行率5%アップ ⑩ 同10%アップ

◇ 次の10の環境にやさしい行動の実行率を市民によるアンケートで把握する。

① テレビはつけっぱなしにせず、見たい番組だけ見てこまめに消している。67%

② 暖房は20度、冷房は28度を目安に温度設定する。66%

③ 電気製品は使わないときはプラグを抜くなど待機時消費電力を少なくしている。40%

- ④電気、ガス、石油機器などを買うときは、省エネルギータイプのものを選んでる。68%
- ⑤洗剤・シャンプーは詰め替え用を買っている。⑥トイレトペーパーは古紙100%のものを買う。
- ⑦短い距離では自動車を使わない45%。⑧マイバッグを使っている。(アンダーライは新たな項目)
- ⑨ごみと資源の分別を徹底している。⑩風呂の残り湯を再利用している。66%
- ◇ ベースとして平成14年度実施の環境に関するアンケートを参考にする。

● 環境指標 I 2 : **エコライフ宣言者数**

現状 未実施 [H14] → **目標** ⑤ 500人 ⑩ 3,000人

- ◇ エコドームで実施しているエコファミリー登録制度をリニューアルして実施。
- ◇ エコファミリー登録は平成15年度現在で1,244世帯である。

● 環境指標 I 3 : **1人1日当たりの水道使用量**

現状 327リットル[H14] → **目標** ⑤ 5%減 ⑩ 10%減

- ◇ 家庭向けの上水使用量のみを対象。水道事業団が把握しているデータ。ここ数年横ばい傾向。

◆ 検討・把握指標 : **1人1日当たりの電気使用量**

- ◇ 家庭向けの電気使用量のみを対象。但し、中部電力が把握しているデータで、統計資料としては日進市だけのものがないため、把握方法は要検討。

◆ 検討・把握指標 : **1人1日当たりのガス使用量**

- ◇ 家庭向けの電気使用量のみを対象。都市ガス、プロパンガス。民間企業が把握しているデータで、統計資料としては日進市だけのものがないため、把握方法は要検討。

◆ 検討・把握指標 : **1人1日当たりのガソリン使用量**

- ◇ 家庭向けのガソリンのみを対象。日進市のみデータがないため環境家計簿等で把握する。

◆ 検討・把握指標 : **太陽光発電導入世帯数**

- ◇ 家庭で導入している数。市の補助制度を利用している人で把握が可能。

J. ごみと廃棄物

● 環境指標 J 1 : **1人1日当たりのごみ排出量**

現状 881g/人・日[H14] → **目標** ⑤ 800g/人・日 ⑩ 800g/人・日

- ◇ 市内から排出量されたごみ総量÷人口÷365日 (g/人・日)。
- ◇ 目標値はごみ処理基本計画でのH22目標。

● 環境指標 J 2 : **リサイクル率**

現状 2.2%[H14] → **目標** ⑤ 3.0% ⑩ 5.0%

- ◇ 排出するごみに占めるリサイクルされている量の割合。
- ◇ 目標値はごみ処理基本計画でのH22目標。

◆ 検討・把握指標 : **生ごみリサイクル世帯数**

- ◇ 現状は電動生ごみ処理機の補助数。この他コンポスト、EMによる世帯も今後把握。

K. 事業活動・公共事業

● 環境指標K1：環境配慮宣言店舗数

現状 未実施[H14] → **目標** ⑤ 対象店舗の1% ⑩ 対象店舗の10%

◇ 市民調査「グリーンコンシューマーガイドブック」により今後把握。

● 環境指標K2：市役所環境保全のための行動計画達成率

現状 0% [H14] → **目標** ⑤ 100% ⑩ 100%

◇ 平成11年度に対して10%減量为目标としているが、平成15年度現在増加しているため0%。

◆ 検討・把握指標：環境配慮宣言事業所数（ISO14001認証取得など）

◇ ISOに限らず、市民版の認証制度も今後検討していく。

L. 場所のつながり

● 環境指標L1：理想とする小学校区コミュニティ数

現状 未実施[H14] → **目標** ⑤ 1地区 ⑩ 8地区

◇ 現在の小学校区コミュニティプロジェクトのめざす方向として、まずモデル校区で理想とする小学校区コミュニティを組織化し、システムづくりを行う。それを将来的に全小学校区に広げる。

M. 関心のつながり

● 環境指標M1：地域活動参加事業者数

現状 4事業者[H14] → **目標** ⑤ 5事業者 ⑩ 20事業者

◇ 現状は、ライオンズクラブ、ロータリークラブ、中央可鍛工業㈱、豊精密工業㈱が参加している。

● 環境指標M2：環境パートナーシップ協定を結んだ環境団体数

現状 未実施[H14] → **目標** ⑤ 5団体 ⑩ 20団体

◇ 環境まちづくり基本条例に規定される環境パートナーシップ協定に参加する団体数。

N. 様々な世代の参加

● 環境指標N1：こどもプロジェクトへの参加こども数（累計）

現状 112人[H15] → **目標** ⑤ 140人 ⑩ 300人

◇ 子どもの参加指標。現状は、プレイベントからファーストステージ、セカンドステージ、2003～2005版への参加人数。3年間ごとに40人ずつ参加するとして算出。

● 環境指標N2：環境パートナーシップ協定を結んだ環境団体の会員数

現状 未実施[H14] → **目標** ⑤ 300人 ⑩ 1,000人

◇ 環境パートナーシップ協定を結んだ市民団体の協定締結時の会員総数。

● 環境指標N3：講座・イベントにおける年間延べ託児利用者数

【現状】 222人 [H14] → 【目標】 ⑤ 250人 ⑩ 500人

◇ 子育て期の参加指標。託児を依頼される団体からの情報提供による把握。

● 環境指標N4：「にっしんのんびり村」への年間延べ参加者数

【現状】 未実施[H14] → 【目標】 ⑤ 1万人 ⑩ 8万人

◇ スタッフも含めて。計数方法は今後検討。

◆ 検討・把握指標：壮年期の参加指標（おやじの会の参加者数など）

◇ 例：昭友会、日中おやじの会、家推西おやじの会など。

◆ 検討・把握指標：高齢期の参加指標

◇ 例：シルバー人材センター、老人クラブなど。

0. 自然体験・環境共育

● 環境指標O1：環境連続講座修了者延べ数

【現状】 未実施[H14] → 【目標】 ⑤ 150人 ⑩ 600人

◇ 連続講座を修了した人の累計。環境共育の成果指標の一つとして設定。目標は毎年平均30人が修了するものとして設定。

● 環境指標O2：市内自然観察会への年間延べ参加者数

【現状】 538人[H14] → 【目標】 ⑤ 625人 ⑩ 1,000人

◇ 平成15年度現在、日進自然観察会、日進岩藤川自然観察会、水と緑の課主催の自然イベントがあるが、今後東部丘陵など観察する団体が増えるものとして目標設定。

● 環境指標O3：学校への環境まちづくり市民講師年間参加時限数

【現状】 7時限[H14] → 【目標】 ⑤ 20時限 ⑩ 110時限

◇ 総合学習等への環境まちづくりに関する市民講師参加授業時限数。環境課把握数値。

◇ 5年後まではおまかせ！エコ共育プロジェクトで企画提案し、各小中学校（10校）で2時限は授業を持つと想定。20年後には各小中学校（11校）で10時限分は授業を持つと想定し算出。

● 環境指標O4：グリーンマップへの延べ参加者数

【現状】 未実施[H14] → 【目標】 ⑤ 210人 ⑩ 1,000人

◇ 5年後までの間には、各小学校区でグリーンマップづくりを行う予定であり、各小学校区30人ずつが参加すると想定して設定。20年後に向けては、グリーンマップづくりだけでなく、グリーンマップを持ってアイコン巡りをする人も参加者として加える。

◆ 検討・把握指標：環境情報の指標

◇ 環境情報がいかに収集・提供、活かされるかの指標を今後検討する。